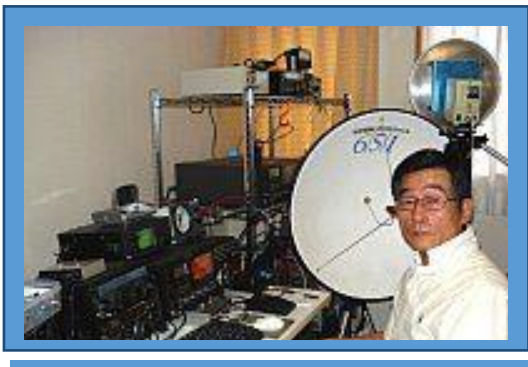


# ITF-2 受信経験者に聞く。〈サテライト通信のコツ〉

筑波大学「結」プロジェクトで開発された

CubeSat「ITF-2」は、2017年1月16日に国際宇宙ステーションより宇宙空間へと放出されました。それ以来、数多くの受信報告をいただいています。「これから受信してみようかな…」、「もっとうまく受信したいなあ…」と書いている方もいると思います。

というわけで、ITF-2の電波の受信に何度も成功している先輩方に受信のコツを聞いてみました。初回は、初日から受信報告を100回以上してください。JACOWちゃんにお話を伺ってきました。



Profile: JA0CAW 佐藤哲郎さん

西新潟無線クラブ所属。

日本でのパケット通信(9K6)の第一任者。

福岡工業大学の衛星「FITSAT」の初受信報告者。

高校1年生からアマチュア無線を始める。

## サテライト通信の思い出

12年程前から本格的に衛星通信を始めたのですが、きっかけは30、40年程前ですね。ハイパワーが必要な時代の中で、衛星通信では10W程度の低電力でヨーロッパと通信出来たんです。その手軽さで衛星通信にはまりましたね。

思い出に残る衛星の1つがAO-13です。

1200MHzのため必要なアンテナが小さくなるんですよ。そのため、多素子のアンテナが作れて面白かったです。またイギリスの無線家と交信したことなど様々な思い出があります。

## 受信のコツは？

正直言って、SDR(ソフトウェアラジオ)ワンセグチューナーのような外部機器と無料ソフトでアマチュア無線を行える(を使うのが一番簡単だと思います。アンテナはJALIPAさんが作った、JAMSATで公開されているものがオススメです。材料も安価で500円で済み、お手軽に作れ、結構ゲインも高いです(ゲイン(利得)が高いと電波は受信しやすくなります)。SDRは無料のSDRがいいですね。USB DongleとSDR、

アンテナがあれば子供でも簡単に信号を受信出来ます。



CAWさんが獲得してきた衛星受信アワード、カードなどの一部。

## これからやってみよう!とは?

したいことは色々あるんですけど、もしS帯(30MHzの高周波数帯)の人工衛星が上がれば、もっと自身の楽しみが増えますね。今、ヨーロッパとアメリカにはS帯の人工衛星の計画があるので、半分静止衛星のため、日本には来ない。日本でもS帯の人工衛星を上げていただければ、高周波数帯を楽しめる。それが夢なんですよ。

## 「協力ありがとうございました」

「編集:岩本泰裕、奈良誠大」